

第297回 益田掃除に学ぶ会 お掃除通信

1、代表世話人挨拶 山崎純
今日は久しぶりに学校のトイレ掃除をさせて頂きます
公園等で公衆トイレもトイレ掃除には変わりませんが、やっぱり学校は
気合が入りますね。天候も過ごしやすい季節になって、掃除も
やり易い頃です。明日子供さんが来てトイレがきれいになったねと
喜んでもらえるように、今日も綺麗にしましょう
2、体験感想発表
・松崎 純次さん(益田市)
会社を辞めてから一年半経ちます。毎日百姓をして、たまに
魚釣りに行って遊んでおります。地域の行事もあって久しぶりに
参加しましたが、今回のように参加者が少ないのは初めてのよう
気がします。トイレはとてもきれいで、初めて参加された教頭先生の
指導もできないような状況でした。本来なら汚れを取って感じて
頂けるんですがそれほどきれいだったと思います
お蔭で今日一日たのしく過ごせると思います
・岡本 昇太さん(浜田市・キヌヤ)
今日はトイレはきれいで、特に便器はきれいでした
ただ、洋式のトイレの止めている部分が汚れていたのと
隅々に砂が溜まっていて、それはきれいになったと思います
・江角 しのぶさん(吉田南小学校教頭)
今日は大変ありがとうございました
今日初めて参加しましたが、トイレ掃除の基本を教えてくださいました
普段家庭でもきちんと掃除が出来ていたと思っていましたが
ただ洗剤を付けてブラシでこすだけでなく、きちんと磨くということを
することが大切であることに気がきました。
今後も今日の体験を活かしていきたいと思っています。
ありがとうございました

2、体験感想発表
・森脇 達也さん(吉田南小学校校長)
今日はお世話になってありがとうございます
今日で二回目の参加です。中西中学校の時に初めて参加しました
手帳を見ますと、2018年の6月、4年前にお世話になりました。
その時に家のトイレを頑張って掃除をしようと云ったのですが、なかなか
そのようにはなっておりません。我が家は家の改装をしたものですから
2階は自分がほぼ使用しているものですから、掃除の回数が増えたのは
間違いありませんけどね。どなたかが言われたように「後を使う人の為に
きちんと掃除をする」また「次に使われる方のためにきれいにする」
カネヨンのキャップの口を綺麗にしておくことも同じだと思います
改めて今日感じました
・山崎 純さん(益田市・キヌヤ)
今日は気持ちの良いトイレに仕上がったと思います
今日は尿漉しと手洗い場をさせて頂きました。静かに尿漉しを
磨くことに没頭して集中できて有難いことです。これを続けていれば
認知症になることもないかなと思います
鍵山さんが「ごみを拾う人は、ごみを捨てない」と仰っていますが
「トイレ掃除をする人はトイレを汚さない」人のことを思う気持ち
大切だと思います
・事務局より
コロナ禍で中々思うように毎月掃除の会が開催できませんが、このように
学校での開催は校長先生はじめ皆さんのご理解があってこそと
毎月感謝しております。引き続きお世話になりますがよろしく願います

開催場所学校 吉田南小学校 校長 森脇 達也
参加者数 7名 教頭 江角 しのぶ

4、鍵山秀三郎相談役 一日一語より抜粋

一人光る

「一人光る 皆光る 何も彼も光る」陶芸家、故河井寛次郎の言葉です

職場において、まず私一人が、コツコツ始める。そのひたむきな姿に共鳴者が

現われてきて、いつの間にか皆がやるようになる。更に徹底して継続すると

何も彼もやるようになる。この順番だと思います。

三十年歴史なる

「十年偉大なり 二十年畏るべし 三十年にして歴史なる」

私の掃除人生は、まさにこの言葉通りのものでした。平凡なことを何の見返りも

求めずにやり続ける。確かに至難なことです。その至難なことをやり続けて時に

周囲の人々が動いてくださるようになりました。続けてきてよかったと実感しております

5、森信三先生の教え

一語千鈞より

・「五十にして天命を知る」というが、知という限り、まだ観命的なものが残っている

それ故、「六十にして耳順う」の境に至って、はじめて真理の肉体化が始まるとも言えよう

・「生」の刻々の瞬間から「死」の一瞬に到るまで、われらの心臓と呼吸は瞬時といえども

留まらない。これは「ありがたい」という程度の言葉で尽くせることではない。

「もったいない」と言っても「かたじけない」と言ってもまだ足りない。文字通り

「不可弥・不可説」である。

・食事をする如く心中深く謝念を抱くのは、真人の一特徴というべし。かかる人は意外に少ないようである

6・平澤 興先生語録より

平澤 興 一日一言より

・徳は一朝一夕では身につくものではない。しかし人間の一生を見ていると、人間としての真の幸不幸を

決める最終的なものは、一にこの徳の有無大小になどのかかっているようである。

徳は普通のやり方や常識的な利害を超えて、心から人のためになろうという愚かさ実践の中から

芽生え、成長するものようである。

・今朝もまた さめて目も見え 手も動く ああ極楽よ この身このまま